

六分陰、地一分半濕の例也、されど土長流砂ながれはつすなを微細に篩ひ整へて、盆栽にすべし、肥鯉節の煎汁を平日に澆ぐべし、移二月中旬よし、根に腐入ときは清水をもてあらひ、水氣を拭ひ去て植べし、長二尺ばかり、よく生育ときは三尺にもおよぶ、夏月は葭簀をもて日覆すべし、夕方より葭簀を取り除き、夜露を受べし、雨天には雨覆ひすべし、秋彼岸より屋の内か、又は温室に入べし、初冬前より油障子をもて風を防ぐべし、風なき日は日の光を當るもよし、此時より來四月頃迄、油障子を開く事なかれ、四月より後風なき日は開てもよし、寒中地窖に入べし、

〔草木育種後編下類井冒稱の類〕鹿角蘭ろくかくらん廣東新語 壽蘭じゆらん琉球りゅうきゅう入面蘭いりめんらん同延命蘭えんめいらん薩州ともいふ、文化丙子の年

始て琉球より來る、中山入面の地に産す、故に玄ゆめんらんといふ、俗ニにふめんらんといふは訛なり、葉仙人指甲蘭せんじんしやうかんに似て大なり、屋周のごとく高く生長す、花は葉間より枝をなし、淡黄色にして黒褐色の斑點あり、油點艸あぶらあまのくさの花に似たり、へこをくだきて卷柏まきの根を少しまじへ、鉢の下へ炭を入れて栽べし、油かす胡麻の類を土へまじへてよし、十月の比より暖窖に入れてよし、略○中

岩蘭いがんらん 房州清澄山にて採り得たり、花戸にあるは大坂より來る、根に小塊あり、麥門冬りやうのひびの塊に似たり、傍より鬚根六七を生じ、葉は黃精きやうせいに似て長く、莖赤みあり、淡紫の花を開く、赤土のごろたに栽てよし、一種岩千鳥いがんせんじゆ一名君ヶ世三州方言といふあり、予喜阿部三州巴川の邊にてとる、崖の石の上に生ず、根に塊あり、岩蘭より莖葉ともに小なり、花に紅白の二品あり、赤土のごろたまし、豆肥を澆ぎてよし、二種ともに年々栽かへてよし、雙鶴蘭さうかくらんなり、柳らんの類かや屋根のふるぐくさりたるを細かにし、合土一合、此ごみ一合ませ合せうゑてよし、略○中

鈴蘭すずらん 野土にても赤土にてもよし、春月早く根を分けてよし、畦に作りてよし、和蘭にてマイヅルルムといふ、頭腦の神經を強壯にするに花を用ふ、又花の細末を鼻に入れて嚏薬とし、頭痛を治すといふ、略○下